

## 九州大学医学部における史料研究

— 1997年調査 —

丸山マサ美<sup>1)</sup>, Wolfgang Michel<sup>2)</sup>, 吉田 眞一<sup>1)</sup>, 小宗 静男<sup>1)</sup><sup>1)</sup>九州大学医学研究院, <sup>2)</sup>元九州大学言語文化研究院

本学医学部には、未整理の多くの器物史料・近世文書がある。

平成25(2013)年5月、九州大学医学部における史料研究の一環として、『九州大学医学部標本・史料集—1997年調査—(ISBN978-4-944005-10-9)』が完成した。整理された史料集は、本学医学部図書館貴重図書室・国立国会図書館へ寄贈した。また、本学では、九州大学学術情報リポジトリ QIR: Kyushu University Institutional Repository 適用情報資源管理システム(以下、QIRと略す)を活用し、平成9(1997)年、整形外科教室整形外科器物史料・整形外科資料室ノートなど(83点)、解剖模型(294点)、病理学肉眼標本室標本(1542点)、医学部資料集室史料(221点)収集した写真・資料(一部を除き)は、『明治期—大正期—昭和期』に渡る臨床・研究成果の閲覧を可能とした。<https://qir.kyushu-u.ac.jp/asp/ace/handle/2324/26569>)

平成17(2005)年、福岡は、西方沖地震(マグニチュード7.0)により、器物史料、病理標本など、修復が不可能となった史料があった。明治期より、現在に至る貴重な病理標本などは、時代性と地域性において、患者個人が特定される可能性はあるが、すべて『九州大学医学部標本・史料集—1997年調査—』に掲載された。本学医学部図書館では、貴重資料室に保管され持ち出すことは禁止としたが、閲覧することは可能とした。未整理の器物史料・近世文書の調査・整理・保管のためには、調査資金と共に、古書保管のための書棚、空調、さらには、カビ・防虫ほか、古書・貴重書修復のための経費など、莫大な経費を必要とする。

しかしながら、史料研究は、時代を正確に映し、その時代の社会情勢、また、医師の治療をありのまま反映することのできる貴重な「価値」をもつ。QIRの活用を通し、国内のみならず、海外との学際研究としての取り組みが期待される。特に、各教授陣の臨床・教育の歴史は、各領域の学問の系譜を学ぶ上でも極めて貴重な資料である。九州帝國大學教授陣の教材(器物史料・近世文書)の中には、博多人形師に作成依頼した“ムラージュ”など、精巧に作成された皮膚科学教育における教材は、リアルであるばかりか、美術的にも優れた教材である。当時の教授陣の専門家意識の高さと、教育への誇りが感じられる。今後、未整理の器物史料・近世文書のさらなる調査・保管・整理が期待される。

付記 本研究は、平成23・24・25年度文部科学省科学研究助成金(研究課題)九州大学医学における史料研究—新しい「医の倫理」教育方法論の構築—の一環である。